

## ◎干潟の保全活動-シギが来る干潟づくり、進行中

鳥類園の下の池の中には、長い間十分な手入れがされなかったため、ヨシ原が広がりすぎたり、古いヨシが密集し、水の流れや風通しが悪く、生きものが棲みにくい環境になっているところがあります。「がたモニ」では、古いヨシ原を切り開き、風や水の流れをつくったり、ヨシを刈り払って更新し、生きものが棲める干潟づくりを進めています。

昨年から進められているこの活動に、少しずつ成果が現れています。腐食が溜まって強いメタン臭がした干潟も、空気にさらされたり、水の流れが改善されて、土の色が変わってきました。

ほんの少し離れたきれいな干潟に棲むアシハラガニが新しい住処として移住してきたら、ヨシ原が棲みやよくなっている証拠。それまでせっせとヨシを刈って、新しい干潟づくりを進めます。

写真上:2度目の刈り払いの後の滞筋の様子。流れがわかります。

写真下:刈り払ったヨシを搬出しています。すぐ後ろが新しいヨシ、茶色の穂が見えるのが古いヨシです。



## ひがたの生きもの図鑑 ミサゴ 鷗

冬の葛西には、たくさんの鳥たちが越冬のために集まってきます。そして、それらを食べるタカの仲間（猛禽類）もやってきます。

彼らの狙いは、カモなどの水鳥や小鳥ですが、なかには魚を専門に食べるミサゴというタカもいます。カラスよりもずっと大きな鳥で、白いスマートな体は格好良く、人気があります。東なぎさの遠くにいたので、はっきり見えることは少ないのですが、鳥類園の上空や池にやってくると、カメラマンの方々がシャッターを押しまくります（笑）。

彼らの主食は、ボラのような大型の魚です。ホバリングしながら狙いを定め、ダイビングして魚を捕らえます。とは言っても、狩りの様子を見る機会は少なく、杭の上に魚を運んで食べている姿をよく目にします。

そんなミサゴについて、わたしには密かな「野望」があります。普通、ミサゴを観察できるのは秋から冬ですが、時々、繁殖期にあたる春から夏にも見かけることがあります。しかも2羽！ 餌になる魚は多い気がするのですが、いつか東なぎさにとどまって、繁殖する可能性があるかもしれません……。彼らは海沿いの崖や大きな木の上に巣をつくりますが、ニューヨークにある保護区では、人工の巣台を設置して、繁殖に成功しているそうです。東なぎさでも海風に負けない巣台を設置できれば、東京生まれのミサゴが育つんじゃないかな〜？と密かに妄想しています（笑）。

(文・写真:中村忠昌(NPO法人 生態教育センター))

## イベントカレンダー 2011年10~3月

### ■申し込み

不要です。当日それぞれの集合場所にお越し下さい。行事傷害保険に加入のため、集合時に名簿へお名前や住所をご記入いただきます。参加費は当日お持ちください。

### ■問い合わせ:認定NPO法人生態工房 がたモニ係

〒167-0054 杉並区松庵3-38-14-2D

e-mail: info@eco-works.gr.jp 電話・ファクス: 03-3331-5004

HP: http://www.eco-works.gr.jp/

生態工房 検索



### 干潟の自然観察会

定員:各回25人/雨天中止/風が強いです。防寒をしっかりしておいでください。

### ◎鳥の足型標本づくり

干潟に残された水鳥の足跡を探し、石膏で型どりします。完成した標本はすてきな置物に。どうぞ持ち帰りください。

●1/23(日) 10:00-12:00

場所:葛西海浜公園 西なぎさ案内所前(葛西渚橋を渡ったところ)

持ち物:長靴、防寒具/参加費:500円

案内:鈴木茂也(三浦半島自然保護の会)



### ◎沖のスズガモ観察会

冬になると葛西周辺にはカモのなかまが10種類以上渡ってきます。

なかでも沖に浮かぶ20,000羽のスズガモは圧巻です。

カモを中心に水辺の野鳥を観察しましょう。

●2/6(日) 10:00-12:00

場所:葛西海浜公園 西なぎさ案内所前(葛西渚橋を渡ったところ)

持ち物:あれば双眼鏡(望遠鏡を用意しています。なくても大丈夫)

参加費:300円



### 干潟の保全作業

#### ◎シギが来る干潟づくり

ヨシが増え干潟が狭くなっています。ヨシを刈ってシギやチドリがエサをとれる干潟に戻しましょう。

●3/19(土) 9:30~12:00 雨天中止

持ち物:長靴、汚れてもよい服装

場所:葛西臨海公園鳥類園ウオッチングセンター集合

10人以上でご参加の場合は、道具の用意の都合上、事前にご連絡ください。